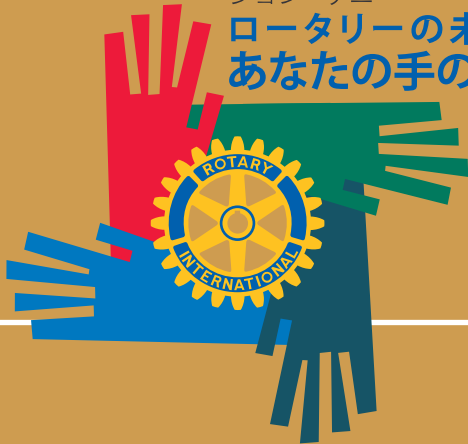


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ  
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は  
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

## 親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

### プログラム

- 本日  
来賓卓話  
そらぶちキッズキャンプ  
事務局長代理 佐々木健一郎様
- 次週予定  
年次総会

### 結婚記念日

- 11月22日 斎藤 敏夫
- 11月23日 原田 功
- 11月23日 深瀬 晏男

No. 2396

第19回 11月18日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	33名
出席率	80.49%

前々会

第16回 10月28日

出席会員	31名
メイクアップ	2名
修正出席率	76.19%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



### 会長報告

- 11月5日の留萌新聞で、物故会員追悼大法会と交通安全横断幕寄贈の記事が掲載されました。
- 留萌地方特別支援教育研究連盟より、平成21年度南部ブロック合同学習会開催の案内が届いております。例年社会奉仕委員会の事業ですので、委員長さんにお渡しします。日時は11月25日9時50分中央公民館です。

### ゲスト

留萌市立港北小学校 校長 森 弘子様

### ビジター

国際ロータリー 2510地区 G S E 委員会

委員 金坂 和正様、泉 敬止様



### 3分間情報

会員研修委員会

越野委員

「ロータリー財団月間」

11月は財団月間です。この財団は、国際ロータリーの6人目の会長アーク・クランプ氏の提唱で1917年に基金として発足、1928年の国際大会で「ロータリー財団」と名付けられました。財団の目標は博愛、慈善、教育または人道的という特質を持つ明確かつ効果的なプログラムの促進を通じて、さまざまな国の国民の間に理解



### 幹事報告

- 1) 国際ロータリー第2510地区、地区大会の会長代理田口良一様より礼状が届いております。
- 2) 白老RCより30周年の歩みが届きました。

と友好的関係を助長することです。ロータリー財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの、人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、世界平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援することです。

2010年度より財団プログラムが大きく変更され、新地区補助金プログラム、グローバル補助金プログラム、ポリオ・プラス・プログラム、の三分野になり、財団寄付の50% (3年後)が地区に返還され独自の活動に利用出来るようになります。

会員は毎年一人10ドル会費の中から納めています。また個人が1000ドル寄付すると、ポールハリスフェローになります。

## ニコニコBOX .....

- 来年GSEスウェーデンチームをどうぞよろしく願います。 金坂地区GSE委員 泉地区GSE委員
- 職場訪問で物故者法要を利していただきありがとうございました 田中会員よりDVDをいただきました 越野会員
- そば例会で越野会員には大変お世話になりました 中川会員
- 物故会員追悼大法会ではお香でお迎えいただき越野住職から貴重なお話を賜りました 法会終了後には明澤会員お手製のおいしいソバをいただきました 森(幹)会員
- よい事がありました 佐藤(寛)会員
- よい事がありました 渡部会員
- 2008~09年度のクラブ活動報告書が遠藤元幹事のお陰で早めに作成いただきました ありがとうございます 齋藤(清)会員
- 2008~09年度活動報告書出来ました 1年間ありがとうございます 遠藤会員

前 回	435,000円
今 回	25,000円
累 計	<u>460,000円</u>

## プログラム .....

### 来賓卓話

「多くの人に支えられて…出会いに感謝」

留萌市立港北小学校

校長 森 弘子様

今回この様な場にお呼びいただき、誠にありがとうございます。私自身これといった得意とする事、趣味などもございませんので、皆様の前で何を話せばよいか迷いました。そこで、今の管理職も含めて教職員生活のお話を私自身中心にお話をさせていただきます。



私は昭和50年、別荘小学校を振り出しに教員としてスタートしました。留萌管内の小学校に勤務させていただいておりますが、現在の港北小学校で9校目、35年になります。残念な事に3校が閉校になってしまいました。北は天塩町酪農地帯の更岸小学校、南は増毛町の漁村地帯の別荘小学校に勤務しました。ある資料を見ると留萌管内では現在までに104校が閉校になっており、少子化の影響で平成2年からでも30校余りが閉校しております。大変驚きです。今現在の学校数は小、中学校合わせて41校です。これまで色々な地域をまわり、いろんな地域を知り、たくさんの方々と出会えた事を大変ありがたく思っております。

今回皆様の前でお話をするのが女性校長という事で驚かれた方もいらっしゃると思いますが、私も「今度の校長先生は女性ですか。めずらしいですね。」などとよく言われました。女性教頭・校長の存在はまだ馴染んでいないのかなと思います。しかし、留萌管内に女性管理職が誕生して15年になります。平成7年度に藤田豊子教頭先生の誕生からで、続いて私が平成8年度に教頭になりました。その時は日刊留萌新聞社の方が取材に見えて記事に取り上げていただいた思い出があります。現在留萌管内には女性校長が3名、女性教頭が4名おります。全道で見

ると校長138名、教頭183名の計321名の女性校長・教頭がおります。全道から見ると留萌管内の女性管理職の数は少ない方です。もっとも、私のこれまで育ててきた環境からは女性の校長・教頭の存在は考えられませんでした。私自身教員になってからも、学校推進の要となっている方や学年部の要になっている方はすべて男性でした。管理職は男性という意識でした。私が教員生活21年目にして管理職に就いたことには、時代が職場における女性の進出や登用を期待するようになってきたことと、校長が私に声をかけてくださり、その立場につくことで、窓口が広がればという思いがありました。男女共同参画社会といわれる現在、女性管理職の数も増えつつあり、女性がリーダー・チーフとなって大変活躍している時代です。微力ですが留萌管内で女性管理職として歩ませてもらっています。私自身、しっかりと責任を果たし、後輩へとつなげていきたいと思えます。

私が教諭から教頭と立場が変わり、「たいへんでしょ」「忙しいでしょう」とたくさんのねぎらいの言葉や励ましの言葉をかけていただきました。お世話になった先輩の先生方からも支えていただきました。教頭は「職員室の担任」と言われます。仕事は多岐にわたり目まぐるしい毎日です。調査物の作成、連絡調整、来客の対応、施設の把握、補欠授業等で、一日は瞬く間に過ぎ、仕事に追いかける日々でした。責任の重大さを感じながらも余裕のない毎日でした。

そんな中で電話の対応、来客の接待は苦手でした。電話の対応、来客の接待で職場が分かるような所があります。ある校長先生は「〇〇小学校の〇〇でございます」と電話で話されていました。私自身も「電話・来客のマナー」の本を読み、恥ずかしくないように気をつけました。ある教頭先生の姿から学んだことは、来客時には前もって玄関にスリッパを準備すること、来客が帰る時はお客さんが見えなくなるまで見送ること。会議等で座る場所も教えてもらいました。また、発言も慎重になりました。これまでの会議や研究会では一個人としての意見を述べ、

言いたい事を自由に述べてきました。しかし立場が変わり、「教頭意見」となると学校の考え、校長の考えとなり重くなります。気軽に話しても受け取り方が違うと感じました。学校のことや校長の意を汲んで述べるようになりました。一方校長になると、調査物、案内文書、連絡調整などの実務が減りました。しかし責任の重さが一層増したのは当然です。校長は一校を預かっているという責任の下、最終決断を下します。説明責任を果たさなければなりません。周りの状況、先の見通しなど色々な情報から判断するように努めています。ただ、状況が変われば判断も変えることが必要です。明確に説明できる一貫した考え・姿勢をもっていなければならないと肝に命じています。

また、職場は集団の場です。色々な人がいます。経験豊かな人、新採用の人、厳しい人、温和な人、など様々な人の集まりです。学校は組織として運営していかなければなりません。組織づくり、人間関係づくりも大事な任務です。

「学校運営は、一人で動かすものではない。誰かが動かすのを待っているものでもない。学校教育目標の達成を目指して、仕事を分担し、自分の役割・担当に責任を持って進め、全教職員の協働体制の下で推進していくこと。組織で学校を創り上げていく。」とおさえています。組織の中で自分の役割に責任を持ち、共通理解しながら協働で行う事によって自分の良さが発揮され、失敗もあるけれど自信にもなり、力量が高まり存在感が生まれてくる。そして、何よりも成し遂げた喜び、達成感を教職員みんなで共有出来ます。組織づくり、人間関係づくり、人を動かしやる気にさせるリーダーシップ術は色々あると思いますが、私自身心を込めて、腹を据えて取り組む、すなわち「誠心誠意」取り組み、「感謝」を忘れないようにと努めています。管理職になって、職員を含めて人々の苦勞・努力がすごく分かりました。感謝です。

私の教職生活も残りあと3年となりました。若い頃、一日仕事を終えても子供のこと、授業のこと、学校行事のことが頭から離れない。家に帰ってから明日の準備をしなければならな

いこの仕事に、苦痛を感じていました。スカッと気持ちを切り替え出来ないまま仕事に追いかける毎日でした。しかし、35年間管内の小学校を回り、多くの方に出会いました。元気な子供たちとの出会い、協力的な保護者との出会い、学校のためならと支援してくれる地域の方との出会い、共に頑張る先生方との出会いがありました。赴任したそれぞれの地域・地域で、地域の自然や産業の特性を活かした意見や体験に協力いただきました。田んぼを借りて保護者と一緒に米作り体験活動も行いました。脱穀の時にはわざわざ昔の機械を持ち出してやって見せてくれました。作った餅米を杵や臼を使って餅つきの体験も致しました。うさぎ、にわとり、カモ、熱帯魚など生き物をたくさん飼っていた学校にも勤務しました。うさぎの赤ちゃんの誕生や死に出会い、子供たちと一緒に喜んだり悲しんだりもいたしました。少人数の学校では、地域をあげて運動会や学芸会を行い、保護者の方も歌や踊りを披露したりして、共に学校行事を楽しみました。現在の港北小学校では町内会が中心となって、お祭りの日に出店を出したり、神輿を担いだり、踊りを披露したりして地域でお祭りを楽しんでいます。体験活動は子供たちには地域や地域の方々と触れ合う良い機会だったと思っています。私自身、今でも子供と一緒にいった体験・経験は、しっかりと心に残っております。体験・経験は大切だと思います。どの地域に行っても保護者や地域の方々は学校に対する熱い思い、期待、そしてわが子や孫を思う心は同じだと感じました。「子供は地域の宝」という思いがひしひしと感じました。

留萌管内1市4町の地域でお世話になり、各地域から自信をもらい、この道が続けていく上での力をもらいました。自分の人生を広く豊かに成長をさせてくれました事に感謝しております。教職に就き本当に良かったと思っております。

現在の学校は昭和50年頃に比べると大変変わりました。少子化で子供の数、学校数が減りました。1学級40人余りの子供を相手に毎日勉強していたのが不思議なくらいです。学校は週休

2日制となりました。平成23年度からは小学校に「外国語活動」が始まります。パソコンも導入されています。学校から出すプリントやお便りも「手書き」からパソコンの時代になりました。便利な時代になりました。子供に関しては報道で取り上げられているのでよくご存じと思いますが、不登校、いじめ、学級崩壊等、インターネットや携帯電話による誹謗中傷の新しい形のいじめが出てきています。規範意識の低下や忍耐力の低下なども見られます。現在、市内の学校ではインフルエンザの感染拡大で学校閉鎖や学級閉鎖を余儀なくされています。また、起きてはならない事が起きて残念です。

豊かなこころ、確かな学力、体力や運動能力の育成、基本的な生活習慣の確立、不審者への対応など各学校では色々な課題を抱えています。今日の学校は、開かれた学校を目指しています。学校だけで子供を育成していくのではなく、保護者や地域の方々と連携を図りながら、健全な児童・生徒の育成を目指しています。学校の運営に関しては、学校評議員の方やPTAの皆様地域の方々から、ご意見・要望を伺ってより良い学校を目指しています。私もそういう連携をしながら学校を活性化し、健やかな児童・生徒の育成を目指している所でございます。

最後になりますが、書家の相田みつをさんの言葉に「その時の出会いが人生を根底から変える事がある よき出逢いを」という言葉があります。私自身多くの人たちに出会い、貴重な体験をさせていただき、深い感動・思い出をいただきました。成長過程にある子供たちには、「その時、その場で出逢った人」「あの時、あのひと言」「あの時、あの経験・体験」が、その後の自分の生き方に何らかの影響を与えていると思っています。人との出会い、体験・経験を大切にさせたいと思います。家庭・地域と連携しながら、たくましく生きぬく力を育てていきたいと思っています。

本日はこのような機会を与您にいただき感謝いたします。ありがとうございました。